

平成28年12月26日

南牧村長 大村 公之助 様

南牧村学校づくり委員会
委員長 林 崇 介

今後の南牧村立小・中学校の望ましい教育環境の在り方と
その実現に向けた方策について（答申）

平成28年5月30日付けで南牧村長から諮問を受けた標記の事項について、下記の意見を添えて次のとおり答申する。

答 申

**「現在ある2校の小学校を統合し、統合小学校と中学校において
特色ある小中一貫教育を目指す。」**

《答申の理由》

南牧村学校づくり委員会では、大村村長からの諮問を受け、委員会審議8回、先進地視察2回を開催し検討してきました。また専門的な見地からの意見を集約するために教育専門部会を発足し、今後の南牧村の教育にふさわしい教育ヴィジョンを検討しました。

全国的に進む少子化により、当村の児童・生徒数は現在262名であり、今後もさらに減少することが予想されています。2つの小学校で児童数10人未満の学年が見込まれるなどクラス活動や学校運営に懸念が持たれます。また、三校の校舎は、昭和50年代の同時期に建設され老朽化が進んでいます。

このような状況の中で、南牧村学校づくり委員会は、児童生徒にとってより良い教育環境とは何かを中心に検討してまいりました。児童の成長には、多くの人、多くの物事との関わりを通じて切磋琢磨し、社会性を培い、発達段階や関心の程度に応じた教科学習やクラブ活動等を通して、確かな学力と豊かな心を身につけていく必要があります。そのためには学級の人数は少なくとも15人以上が望ましいと考えます。自治体合併を望まず自立を選択した南牧村にとって、学校規模の縮小は止むを得ないものでありますが、将来を見通した中で、

現段階で最も望ましい教育環境と効率的な学校運営を合わせて検討した結果、小学校の統合と小中一貫教育の導入は最善の方策との結論に至りました。

よって、次の意見を付して答申といたします。

意 見

- (1) 児童・生徒にとって最も望ましい教育環境を早急に実現するため、小中一貫教育の研究を深め、ふるさと学習などを中心とした南牧村の学校教育ヴィジョンが確実に実施されるよう努められたい。
- (2) 統合にあたっては、新しい学校施設を建設されたい。
- (3) 建設地は、既存の小・中学校敷地又は新設も含め、最も適切な場所を選定されたい。
- (4) 児童・生徒の通学手段は、総合的に村が対策を講じられたい。
- (5) 新たな学校は、放課後、自習ができるスペースや、児童クラブ等の多目的な施設を併設されたい。また、他の公共施設との複合化や住民の交流の場となるような学校を拠点とした地域コミュニティの形成に資するものとされたい。
- (6) 厳しい冬期間、児童生徒が運動の機会を確保できる施設を造られたい。
- (7) 学校が無くなる地域の振興に配慮されたい。
- (8) 今後も住民、保護者の声を積極的に聴取し、丁寧な合意形成を図られたい。

以上